



ホア ビン (平和)

HOA BINH LE PORT

JVPPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD, 333, Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@mail.plala.or.jp



47号

会費/正会員:(個人)5,000円(団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)0188872

NPO・JVPPF 第12回総会報告

活動開始 20 周年に向けて 日越交流拡大の下で問われる J V P F の役割

6月1日(土)ルポール麹町(東京)でJVPPF 第12回通常総会が開催されました。今回の総会は2018年度が日越外交関係樹立45周年の年となっており、JVPPFの活動を一層発展させる年になりたいと思いましたが、相応する活動は進みませんでした。ただ広島HVPPFが日越外交関係45周年記念事業として2018年10月にホーチミン市で記念の文化イベントを行いました。また、埼玉JVPPFの平松伴子副会長は2018年8月、クアンナム省で開催された「45周年記念のイベント」に招待を受け訪問してきました。JVPPFはそれぞれに協力してきたことを確認しあいました。

活動の大きな柱である少数民族学生奨学金支援事業はハザン省、クアンチ省、ラムドン省で展開されました。別枠で会員の(一財)時遊人は北部トゥエンクアン省で、「ふえみんベトナムプロジェクト」はダナンで、それぞれ貧困家庭学生支援事業をおこなってきました。

もう一つの柱となっている枯葉剤爆弾被害者支援事業は関係者の尽力で23年目を継続し大きな成果を得てきました。そのための23年間のベトナムアンサンブルチャリティー公演数は377会場となり来場者の累積は約113,000人を数えることになりました。

2018年チャリティー公演による基金の支援事業はハザン



日本軍政下の200万人餓死事件慰霊碑を参拝してきた。(ハノイ市ハイパチユン区ヴィンツイ町(2019/1/15) ※報告8ページ)

省、タイビン省、ナムディン省、カインホア省で被害者家庭調査慰問を実施してきました。同趣旨で埼玉 JVPPF はクアンナム省で枯葉剤被害者家族のための「仁愛の家」寄贈を続け30軒になりました。

来年の2020年がJVPPF 活動開始20周年となることから次の20年に向けた節目としての活動について相談しました。柱として①懸案であった認定NPOへの移行手続きをとる②20周年記念事業として「日本の労働者とベトナム戦争(仮題)」資料集編纂とベトナムへの寄贈③ベトナム南部解放・統一45周年/JVPPF20周年記念訪問団派遣準備を進めること④JVPPFの活動の中で在日ベトナム人を交流対象としてではなく活動に組み入れた形態をとっていくこと等、協議しました。(総会議事内容は6P)

本号の内容

- 特集：枯葉剤被害者家庭6軒を調査・慰問／2P
 - 資料：ナムディン VAVA 枯葉剤被害状況報告／5P
 - 第12回総会報告／6P
 - 少数民族学生奨学金支援報告(ハザン省、ラムドン省)／7P
 - 200万人餓死事件慰霊碑参拝報告／8P
 - 掲示板・短信／5P
- (付)本号の送付にあたっては旅行社アイエフシーから送料の一部便宜供与を受けており、アイエフシーから依頼のツアー・チラシを同封しています。



総会の模様

特集

2019 春 訪問団報告

～6 軒の枯れ葉剤被害者家族を調査・慰問～



ハザン省 VAVA で会談を終えて (2019/1/14)

ハザン省①ハザン市ミンハイ区
枯れ葉剤被害の実態に驚愕！
香川 JVPF 鈴木義博

枯れ葉剤被害の実態といえば、ベト・ドクちゃんにみられるように、いわゆる肉体的障害者のみと思っていた自分が恥ずかしくなる状況が、ベトナム各地で見ることができた。

ベトナム戦争が終結して 40 年を超える今日においても、いまだに枯れ葉剤による後遺症に苦しむ人たちは数十万人ともいわれている現状がある。

ベトナム政府は、地雷や枯れ葉剤による後遺症克服が喫緊の任務として 2018 年に国家指導委員会を立ち上げ、これまで以上に被害者支援を強化しているが、一方で被害者の連鎖は、子や孫の代にまで及んでおり、その対策が求められていることはいうまでも無い。

枯れ葉剤による被害者宅訪問、一軒目は精神障害を患っている患者宅とのこと。ハザン市で暮らす被害者の名前は「ホアビン」さん。漢字で「平和」と書く。そもそも「枯れ葉剤で精神障害？」と思ってしまう自分の無知さに嫌気がさした。

現在 67 歳の彼は、1968 年から 76 年にかけて激戦地でもあった、当時の南北国境地帯に属する「クアンチ」に出兵、その際にアメリカ軍の空爆による枯れ葉剤を浴びたと思われる。その終戦後も 79 年の中国との戦争にも出兵したのち、81 年に精神に異常をきたしたとのことである。枯れ葉剤による被害の実態を理解しないまま、今回の訪問に参加した私にとって、何よりショック



元兵士 67 歳 (男)。クアンチなどで従軍。1981 年頃から発症し動けなくなる。精神異常。妻は離別。子供は一人が死亡。もう一人も病弱。本人の妹が世話をしている。

る子供には、枯れ葉剤による連鎖から逃れ、健康であってほしいと祈るばかりです。

現在彼は妹夫婦によって面倒を見てもらっているが、いわゆる寝たきり状態であり妹が常に彼の世話をしている。政府からの枯れ葉剤被害者としての援助は、月 250 万ドン (日本円にして 1 万 2 千円程) そして、軍人であったことから年金が支給され、320 万ドン (1 万 6 千円程度) の計 570 万ドンで、ベトナムの平均月収 650 万ドンより若干低い額が支給されているとのこと。

妹さん家族も成人含め 3 人の子供を抱え、夫一人の収入で生活している状況であり、決して楽な生活を営んでいるとは思えなかった。当然、妹さんは仕事には就けていない。

究極の人権侵害・環境破壊といわれる戦争の結果、散布された枯れ葉剤は、戦時下に生きた人のみならず、その子や孫にまでその影響が及んでいることを後で知ることになるが、ベトナムにはこうした病に苦し

だったのは国のために戦った一人の人間が、戦後 40 年を超える今日にあっても、足腰が立たないまま精神病を患い、寝たきりで知らない外国人たちの訪問を、受け入れようとしているのか、あるいは拒否しているのかわからないが、何かしら叫び続けている姿に、絶句すると同時に私は直視することが出来なかった。

彼は、結婚し二人の子供をもうけたが、一人は早くに死亡、もうひとは後に離婚した奥さんの下で暮らしているらしい (生死は不明)。子供の死因および離婚について枯れ葉剤被害との因果関係については確認できなかったが、願わくば奥さんと生活す

“体の中で終わらない戦争”を調査

2019 年 1 月、JVPF 訪問団 (1 月 11 日～16 日) が北部デルタ地帯のタイビン省、ナムディン省で JVPF 鹿兒島支部訪問団 (1 月 24 日～28 日) が南部カインホア省で枯れ葉剤被害者家族とリハビリ施設を調査・慰問してきた。

む人たちを受け入れる病院や施設が、まだまだ不足していることを後の被害者宅訪問等を通じて実感することとなった。

ハザン省②ハザン市ゴックドン村
笑顔を見せてくれた被害者

香川 JVPF 小比賀 拓也

Hoang Thi Luyen (女) タイ族 1983 年生れ (35 歳) 第二世代

枯れ葉剤の被害症状: 全盲の障害。

父は、1942 年生れ 68 歳 (逝去)。中部クアンチ省で 1968 年—1971 年従軍。帰省後、心臓、肺、眼の病気になり枯れ葉剤被害者認定を受ける。母親は地元で農業に従事し 25 年前に死亡。ルエンさんは、5 人の兄妹の末っ子。上の 4 人 (長女、長男、次男、三男) は健康に生活。

ルエンさんは、生れた時から全盲で、誕生直後に枯れ葉剤被害者認定申請をした。現在、夫、中学校 3 年生の息子、産れたばかりの 8 か月子供の 4 人で生活。

夫は、枯れ葉剤被害者では無いが目に障害があり、同じ視覚障害者の活動で知り合い結婚した。子供らは現在のところ枯れ葉剤の影響はみられず健康体。

生活は、ルエンさんが 909,000 ドン (4,500 円) の政府・枯れ葉剤被害者支援金、夫は政府の障がい者支援金が 480,000 ドン。夫婦は路上で歌を歌って生計を補填



1 年 8 月 3 日、
ア ン チ 省
の 主 軍 人
の 妻 である
ル エ ン さん
は 5 人 の
兄 弟 の
末 っ 子
で あり、
父 親 の
死 亡 後、
夫 と 結 婚
し、
子 供 2 人
を 養 育
中 である。

し生活費は 2 人合わせて月額 200 万ドン（≒9,200 円）。生活が出来るのか不安になる金額だ。

でもルエンさんは、「生活は、大変ですが、私はすごく幸運だ。私は目が見えないですが歌が人よりうまいので、それで生活が出来る。」と笑顔で語り、最後に歌を披露していただいた。その自分の環境を受け止めしっかり生きていく前を向いた歌声にすごく感動した。

**ナムデイン省 ① Nam Dinh 市
Truong Thi 区 To Hien Thanh 通り
戦争被害が人間の身体に蓄積
埼玉 倉嶋美恵子**

ナムデイン省では2家族を訪問。枯葉剤被害が被害者の2世や3世まで及ぶことを知り大変驚いた。また、被害者救済支援額が国レベルでも大変少なく、2世の被害者などは親が死んでしまうと介護する人がいなくなるという深刻な問題も垣間見えた。家族の苦しみと悲しみは想像を超える



1977年生(男)、二世。精神異常で狂暴化するため、ベッドでは足枷のチェーンがあった。姉は健康で世話している。妹も精神薄弱のようだった。

ものようだ。

その中で民間ではあるが枯葉剤被害者協会(VAVA)という組織は被害者には大きな拠り所であった。家庭慰問の前にナムデイン省全体の被害及び支援活動状況について伺った。(別添資料)

家庭慰問の1件目は1975年生まれの子供だった。一般住宅街の1軒家に鎖で繋がれた状態で生活していた。タバコが好きだとか。スチール製の台に寝具を載せ、そのまま排泄をするようで壁や窓枠には便が付着していた。当然のことだが生活環境としては最悪。家族が介護をしているとのことだが医療的サポートは無いようだ。

被害者:Pham Chi Cuong 男性 1975年生、44歳。精神障害で自分の世話が出来ない、外も出かけない、出るとどこに行くか分からない、自分で家に帰ることも出来

ない、それで安全、安心のために部屋の中で鎖を付けているとのことだ。

妹の名前は:Pham Thi Hoa 1977年生まれ、神経薄弱。

二人は一緒に住んでいるが二人とも自分で世話事が出来ない。Cuongさんは枯れ葉剤被害者として政府から1,450,000ドン支援。妹のHoaさんも身障者として毎月支援金(金額不明)を受けているとのこと。

父親:Pham Van Ngan 1942年生まれ、1966年から1978年まで中部 Quang Tri 省の戦場で従軍。地元に戻った後2人子供が生まれたが2人とも神経の病気。父親は2010年病気で死亡。母親は Nguyen Thi Chung 1940年生まれ、工員。2004年病気で死亡。

介護は二人の叔母さんが交互に面倒みている。

ベトナム戦争の洗礼を受けたのは学生時代だった。1960年代後半、日本の軍事米軍基地から離発着の飛行機が負傷した米兵を運んでいた。大変深く覚えている。ベトナムの地に降り立ってみたい、今回はその願いが叶い嬉しく思う一方、貧しさで戦争被害が人間の身体に蓄積してしまった苦しみを何とか取り除いて欲しいと願わずにはいられない。

**ナムデイン省②ナンチュック郡ニ
アアン村
戦争が終わっていないと実感
新潟 川上敏子**

1月14日、ナムデイン省で2軒目の枯葉剤被害者を訪問した。母親(69歳)、長男(38歳)、長女(35歳)、次女(33歳)の4人家族。長男は生まれた時から寝たきりで精神薄弱。長女、次女も健康そうに見えるが精神薄弱。枯葉剤の影響だと聞かされる。

父親がベトナム戦争時激戦地のクアンチ省に十数年いたという。帰省してから1980年に長男、1984年に長女、1986年に次女が生まれる。長男は生まれた時から手足が動かなかったという。長女、次女は3歳ごろから身体異変の症状がでてきた。しかし原因が枯葉剤だとは知らなかったようだ。1990年に17の症状事例に基づき枯葉剤によるものと診断され初めて知った。



1953年生まれの父親はクアンチで従軍。復員後寝たきりで2012年死亡。長男3歳で発症し動けない、寝たきり。(右端)妹二人も精神薄弱で動けるが食事も作れない。(中二人)自分が病気になるなら子供らは食事もできないと悲嘆にくれる61歳の母親(左端)。

父親は2012年に死亡。枯葉剤の影響で家族5人の内4人(母親を除いて)が発症した。

収入は毎月240万ドンの政府支給のみ。他は母親が数時間程度の農作業と隣人の雑用手伝いで得ている。子供たちの世話で仕事時間が限られている。近くに兄弟や親戚もいないため頼れる人がいない。本当に困った時はVAVAに助けを求めるといふ。母親は「自分が死んだら、子どもたちはどうなるのか」と涙ぐむ。

戦争から月日が経っているのに枯葉剤が今も人々を苦しめている事を知り、戦争が終わっていないと実感した。これから先のこの家族の生活を想い心が重くなる。はじめての参加だったが多くの事を学んだ。これからの生き方をも考えさせられる旅となった。こうした活動に協力していきたいと思う。

**カインホア省①②
①ニャチャン市フオックロン区グエ
ンドックカイン通ドゥオン65
②ニャチャン市ヴィンロン村ルオン
ホア部落
お土産と支援金贈呈
鹿児島 JVPF 道免義隆**

2019年1月26日 カインホア省ニャチャン市を訪問。ベトナム枯葉剤被害者協会(VAVA)カインホア省事務所で会長のケンさん、副会長のナンさん、ミーさん、そしてニャチャン市の会長のロンさん、診療



カインホア省 VAVA で (2019/1/26)

所のオイヤさんと会談の場をもった。

- ・実態：省内で被害者約1万人。そのうち政府援助を受けているのは約 3000 人で、7000 人は援助がない。
- ・省内には直接散布されたところもある。ニャチャンの空港も枯葉剤作戦に使われた。

今も、通常の 100 倍の汚染土がある。散布地は3カ所に集中(注：解放軍根拠地があったか?)。残存は何百年も残るのではない。除染は検討中とのこと。

- ・汚染濃度が高い(ホット・スポット)3カ所の場所では、今も少数民族が生活している。主に農業やっている。人への影響は研究中。2021～23 年予定。
- ・被害状況：3世代にも影響が出ている。4代目もいる。援助無い。今、3000 人について援助手続き、慰問、相談、お土産、病気見舞い等行っている。家屋老朽の家族には家も作っている。やっと10戸になった。
- ・政府の生活援助金もある。アメリカの退役軍人会も援助。
- ・VAVA のスタッフは省レベルで4人。12 軍区に各一人。施設は、2年前、除染サウナが出来た。被害者は21日間利用できる。他は無い。

その後、被害者家庭慰問・調査をおこなった。

【2 軒の被害者家庭】

① Do Thi Thanh Phuing, 40 歳(女)



- ・両親は死亡、兄夫婦面倒をみている。兄と弟2人。弟2人健康とのこと。
- ・父親は軍人。戦場で被害。
- ・生まれたときから障害。話は聞けるけど話せない。7年前までは話せた。
- ・兄夫婦仕事持っているために、ヘルパー雇用(1ヵ月 35000ドン?)

② Do Thi Thanh Hieu 長女 36歳。

Do Thi Thanh Vy 三女 26歳。

- ・中に男の子がいたが5歳で死亡。次女は、幼稚園先生。



- ・母63歳一人で面倒みている。父親は元軍人だったが 20 年前家出。
 - ・昨年9月水害があり自宅1メートル浸水。なんとか役場に避難できた。今、避難を想定し政府援助で2階増築中。
 - ・症状は、2人とも歩けない、立てない、手が使えない、車イス使えない。だが母親が言葉・文字教え、話せるし、新聞も読める。スマホも使いこなす利発そうだった。
- 2家族に、お土産と支援金贈呈した。

**タイビン省枯れ葉剤リハビリ施設
不安が残った慰問**

JVPF 香川 大池日登美

2019 年 1 月 11 日～16 日の日程で、「JVPF ベトナム友好の旅」に参加しました。私を含め 4 名が初参加ということもあり、北部ハザン省までのバス移動中に、JVPF 鎌田さんから 2 日目以降の奨学金贈呈式・慰問先に関する基礎的な説明を受けた。

暑いと思っていたベトナムでしたが意外と過ごしやすく、4 日目はタイビン省(首都ハノイの南東に位置)の枯れ葉剤リハビリ施設(入所型)を慰問した。枯れ葉剤被害者の二世・三世も生活しており、入所者のほとんどは障害者・認知症の方(200 名中約 170 名)だった。

私たちを迎えてくれた枯れ葉剤被害者の方々は 6 歳～46 歳で、お土産として持参した T シャツやお菓子を手にした時の笑顔がとても素敵で、この笑顔を決して奪やさないために JVPF(私たち)に何が出来るのか、施設長に要望を聞いてみた。

すると、宿舎は2004年に、職業訓練を兼ねた作業所は約 10 年前に JVPF がそれぞれ建築してい

たのだが、この宿舎は、今新しい宿舎が建っている土地より約 80 cm 低く、降雨時に浸水するため取り壊したいとのことだった。また、作業所に関しては既に取り壊され、更地となっていた。

日本であれば、13 年くらいで取り壊さなければならぬほど破損するはずもなく、メンテナンスをしながら大切に使うのだが、お国柄なのか?とにかく「使って古くなったからベトナム政府や国内外のスポンサー支援で建て替えたい」と、私たちの感覚とは違った要望を突き付けられた。

日本でも障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律が施行されているが、障害者の方たちの就労支援(自立)の難しさが問題となっている。この施設でもせつかく作業所に導入したマシンなどの職業訓練設備までもが建物と一緒になくなっていて、今はお寺参りの時に納めるお札を作成する業務を請け負っているとのことだった。

施設のスタッフについては、44 人中トレーニングスタッフ 2 人、看護師・介護士 18 人で、総務や警備に関わる人に比べると医療にかかわるスタッフが少なすぎる現実があり、被害者の方のリハビリや職業訓練支援が十分できてないと不安が残った慰問だった。



上：入所の障がい者たちに土産を贈呈。
下：コンサート益金 1000 万円で寄贈した寄宿のリハビリ施設の老朽化激しい現況



資料 ナムディン省 VAVA 報告より(2019 年 1 月 14 日)抜粋

—ナムディンは、北部デルタの沿岸中心部にあり、面積は 1,676 ㎢、海岸線は 70 km。人口 200 万人、省には 9 地区行政単位と 1 直轄市(ナムディン市)、229 共同体(区、町、村)。

経済は主に農業。しかし現在農業は 20%で 80%は工業とサービス業。省内総生産は年間約 20 億ドル。経済成長率は年間約 8.5%。

—ベトナムと日本は、同じ戦争の痛みを抱えている。2つのアメリカの原爆でヒロシマとナガサキで数十万人(訳者注:数字は補正)が犠牲になった。ベトナムでは破壊的な化学兵器が使用された。8300 万リットルのダイオキシン含有化学物質が散布され、400 万人が影響を受け 300 万人がダイオキシンに曝された。未だに健康と環境に予期せぬ結果をもたらしている。

—ナムディン省では解放戦争中、南ベトナムの戦場へ 30 万人近くが参加。3 万人がダイオキシン被害に曝されている(10%)。これまで、15,200 人がダイオキシンの直接被害として確認。うち 2,500 人が重度の病気(癌、糖尿病、その他の深刻な病気)で死亡。

現在、省全体で、10,475 人の直接被害者(F1)と 2,774 人の間接被害者(F2)を含む 13,249 人の生存者を確認。70 歳以上の 100%直接被害者のほとんどが化学物質中毒による病気。直接被害者(F1)のうち重症のレベル1=250 人(2.33%)、レベル 2 = 3,194 人(29.86%)、レベル 3 = 6,133 人(57.2%)、レベル 4 = 1,139 人(10.62%)(訳者注:数字が合わないがママとした)

間接被害者(F2)で自身で生活できない重症のレベル1=672 人(24.6%)、レベル 2 = 2,046 人(75.4%)。レベル 2 の子供たちは、主に統合失調症、精神発達障害、身体発達障害に苦しんでいる。

- 遺伝子破損により第 3 世代(精神障害)の子供たちが 175 人。
- 家族の中の犠牲者数:1 人の犠牲者を持つ 7,814 家族、2 人の犠牲者を持つ 1,253 家族、3 人の犠牲者を持つ 140 家族、4 人以上の犠牲者を持つ 7 人家族。
- 現在、両親が死亡した被害者のみ家庭が 3 家族、片親が死亡している家庭が 30%。5 年から 10 年後には、この数が増える予想される。
- 被害者の状況:自身で生活できない被害者(寝たきり、身体障害、精神障害)は 699 人。家族も含め貧困 597 人。平均的な生活水準 7,704 人。生活水準が比較的良好い 1,763 人。572 家族の家屋の老朽化しており修復が必要。

—ナムディン省 VAVA は 2006 年 1 月に設立され、畜産農業における技術訓練、身体のリハビリ看護、自転車・車椅子、毛布・作業服、家電製品などの物資支援、送迎支援。子供たちのための奨学金や学習施設の提供など活動してきた。過去 5 年間(2013 年 - 2018 年)だけで、VAVA は 71,000 人の犠牲者を援助し、金額は 22.6 億ドン。現在、ナムディン省 VAVA は傘下に 10 の郡レベル VAVA、229 の村や区レベルの VAVA、町内会や部落に 1000 支部。

《これからの目標》

VAVA Nam Dinh の基本的な目的

- 1-犠牲者のために無料の定期的な健康管理を提供するために医療部門を動員し調整(犠牲者の 100%が無料の年間健康診断を受ける権利がある)。
- 2-障害のある被害者が運動機能を回復するのを助け、被害者のためにダイオキシンを除去するための移動を支援(車椅子と車を彼らに寄付する)。
- 3-老朽化した家を恒久的なものに建て替えたり修理するのを手伝う(512 家族)。
- 4-無利子のローン、繁殖用の牛の飼育、繁殖技術の訓練など、家族向けの経済活動を支援。社会動員による。
- 5-彼らの子孫が教育を受け、地域社会で共生するための奨学金や手段を支援
- 6 困難困窮、悲惨な生活、または重い病気を抱えているときの手当。
- 7-行政当局に対し、被害者の支援、育成、リハビリ、ケアのためのセンターを早急に設立するよう提案。特に孤児を養育するための施設。

—略



ナムディン省 VAVA での会談後 (2019/1/14)

掲示板・短信

- 今年(2020 年)の JVPF 活動開始 20 周年に向けていくつかの記念事業を準備していきます。①認定 NPO への移行準備 ②「ベトナム戦争反対闘争 と日本の労働者」(仮称)とした写真・資料を収集し記録する ③解放統一 45 周年と JVPF 20 周年を記念した訪問団
- 枯葉剤は時間が経過するほど本性を現しています。日越の政治・経済・文化関係が緊密になるほど JVPF は枯葉剤被害者の現状を暴いていきたいと思ひます。追跡記録映像『トアとトウオン』の上映活動と呼び掛けていきます。
- 埼玉 JVPF は 8 月 4 日から中部クアナム省での枯葉剤被害者支援の「仁愛の家」寄贈のため訪問団を派遣します。
- 広島 HVPF はクアンチ省での奨学金支援事業のため第 14 次訪問団を 10 月 28 日から予定。
- 23 年目となるベトナムアンサンブル 枯葉剤被害者支援チャリティーコンサートは 10 月 16 日～10 月 27 日の期間計画。
- JVPF 枯葉剤被害者家庭慰問・調査団は 2020 年 1 月 10 日～15 日計画。
- 2019 年度のハザン省少数民族学生奨学金支援贈呈訪問団は 2020 年 1 月 10 日から実施。詳細は 9 月発表
- 鹿児島 JVPF のラムドン省少数民族奨学金支援活動は 12 月頃計画。
- JVPF 福岡は 8 月下旬ハノイ大学と提携したベトナム-日本連携プログラムで学生を派遣。
- オペラ歌手・角田和宏さんは今年も 11 月下旬に国立ホーチミン音楽大学でオペラレッスンを計画。なお、2017 年 12 月音楽大学で実施のコンテスト優秀者の Pham Khanh Ngoc、Ms を「角田賞」として日本招待し「ジョイントコンサート」を 9 月(22 日:銀座ライオン、23 日:前橋テルサ)に実施予定。

【重要】認定 NPO 移行の法規条件ため賛助会費(2500 円)登録の方には 500 円の寄付追加を頂くことになりました。

～ベトナム戦争・枯葉剤爆弾被害者支援のための～
 2019「ベトナムの色彩と日越友情の空間」日程

- △10 月 16 日(水)(要請中)
- ◎10 月 17 日(木) 埼玉・東松山市民活動センター
- ◎10 月 18 日(金) 青森市・県民福祉プラザホール
- △10 月 19 日(土)(要請中)
- ◎10 月 21 日(月) 盛岡市・岩手教育会館ホール
- ◎10 月 22 日(火) 秋田市・子ども劇場ホール
- ◎10 月 23 日(水) 東京・西東京市こもれび小ホール
- ◎10 月 24 日(木) 神奈川・相模原市南市民ホール
- ◎10 月 25 日(金) 新潟・南魚沼市コミュニティホール
- ◎10 月 26 日(土) 富山市・ボルファートとやまホール
- △10 月 27 日(日)(要請中) △:要請中

※未だ開催空白日があります。開催ご協力お願いします。

NPO・JVPF 第12回総会報告

6月1日、第23回、第24回理事会及び第12回通常総会がポール麹町(東京)で開催され、提案されたすべての議案が採択されました。

2018年事業報告(抜粋)

【組織活動】

2018年度は日越外交樹立45周年の年になっており、JVPFの活動を一層発展させる年にしていききたいと思いましたが、相応する活動は進みませんでした。ただ広島HVPFが日越外交関係45周年事業として10月にホーチミン市で開催した文化事業を行いました。また、埼玉JVPFの平松伴子副会長は2018年8月、ラムドン省で開催された「45周年記念のイベント」に招待を受け訪問してきました。JVPFはそれぞれに協力してきました。

【事業】

1. 教育支援事業(1)一少数民族出身学生奨学金支援

①北部ハンザで少数民族中学生を対象に宮崎JVPF支部、かがわJVPFが中心になって進めています。また鹿児島JVPFはラムドン省の少数民族寄宿高校で奨学金を実施しました。

②クアンチ省では広島HVPFが奨学金を継続しました。

2. 教育支援事業(2)一村山記念JVPF日本語学校

①現在、ホーチミン市内の公立高校やラムドン省少数民族寄宿高校などでも「日本語教育プログラム」の出前授業を行っており、経営的には安定し留学生派遣も順調に推移しています。

3. 国際協力事業(1)一枯葉剤被害者支援の活動

①2019年1月に訪問団がハザン省で2軒の被害者家庭調査慰問、タイビン省でリハビリ施設訪問、ナムデイン省で2軒の被害者家庭調査慰問をしてきました。タイビン リハビリ施設付設のト

レーニングセンターは敷地再編のため解体され、リハビリ施設もメンテナンスがなされておらず老朽化が激しく活用がなされていませんでした。越日友好協会には意見具申しました。

②鹿児島JVPFは中南部カインホア省で枯葉剤被害者協会との会談と2軒の被害者家庭調査慰問を実施してきました。

③埼玉JVPFはクアンナム省への訪問団を実施。寄贈してきた枯葉剤被害者のための「仁愛の家」は30軒になりました。

4. 国際協力事業(2)一ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート

23年目となった2018年のコンサートは、ボンセン歌舞団選抜グループが10月15日～10月30日滞在しコンサート、友好活動を行いました。来場者は約2,900人、チケット購入協賛者は4,000人ほどとなりました。23年目となる今回で公演数は377会場となり来場者の累積は約112,000人をかぞえることになりました。

5. 国際交流事業(1)一日本語研修

この事業は条件が整わず未実施。

6. 国際交流事業(2)一文化・スポーツ交流

①2018年5月にオペラ歌手角田和宏さんがホーチミン国立音楽大学で声楽の指導をするため出向きました。今年の9月には同大学の声楽コンクール優秀者を招聘し東京、前橋でオペラコンサートを開催予定です。

7. その他の事業(1)一会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」

①在日技能実習生が増える中で多く

の問題が生じてきており、サポートを考えましたが進展しませんでした。

②-略

2019年度事業計画(抜粋)

【組織活動】

1. 2019年度は、2020年のJVPF結成20周年に向けた諸事業を準備していきます。

【事業】

1. 教育支援事業(1)一少数民族出身学生奨学金支援

①北部ハンザン省での少数民族寄宿中学校への奨学金支援事業を行います。

②JVPF鹿児島支部のラムドン省少数民族寄宿高校生奨学金、広島HVPFのクアンチ省での少数民族学生奨学金事業をサポートします。

2. 教育支援事業(2)一村山記念JVPF日本語学校

3. 国際協力事業(1)一枯葉剤被害者のための活動

①JVPF設立の柱である支援活動を調査・慰問を通じて続けます。

②埼玉JVPFの「仁愛の家」寄贈活動や各支部・会員の活動をサポートしていきます。

③枯葉剤被害者追跡記録DVD『トアとトゥアン』の上映運動を進めます。

4. 国際協力事業(2)一ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート

①今年も活動の柱として継続していきます。ただ、2020年を一つの区切りとして今後の在り方についての検討をします。

5. 国際交流事業(1)一日本語及び日本研修

6. 国際交流事業(2)一文化・スポーツ交流

①オペラ歌手角田和宏さんが進めている日越オペラ交流活動をサポートしていきます。

7. 国際交流事業(3)一JVPF20周年特別事業

①懸案であった認定NPOへの移行に着手します。

②20周年を迎えますので記念事業を今年から計画していきます。その



総会後の懇親会にJVPF関係の留学生たちも顔を出してくれた。

一つとして「ベトナム戦争反対闘争と日本の労働者」(仮称)とした写真・資料を収集し記録としてベトナム側に寄贈します。

③解放統一45周年とJVPF20周年を記念した訪問団を2020年上期に計画していきます。

8. その他の事業(1)一会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」

以上

2018年度活動計算	
I. 経常利	3,109,506
II. 経常費用	2,913,201
III. 経常外費	58,740
次期繰越金	255,045

2019年度活動予算	
I. 経常利益	3,390,000
II. 経常費用	3,250,000
III. 経常外費用	140,000

2019 春ハザン省で奨学金支援

JVPF 宮崎県支部 阿部洋子

2016年度から開始されたハザン省ヴィスエン郡寄宿中学校での奨学金支援事業(180ドル×4カ年)は3年目となり、現在30人の学生を支援しています。



上: 今回も希望の言葉を新潟の角山さんの書で贈呈(ハザン・ヴィスエン寄宿中学校で)

下: 贈呈式後、先生方と懇談会をもった。



今回の参加者は、事務局を除き10人。現地スタッフのメンバーのなかにも、ハザン訪問は初めてという人もおり、私もまた、初めてのハザンへの旅。加えて、「ハザン省への外国人の入省は許可制」と聞くと若干の不安を覚えました。ノイバイ空港(ハノイ)からの6時間を超えるマイクロバスの旅は、味わい深いものでした。

ハザン・ヴィスエン郡少数民族寄宿中学校での奨学金贈呈式では、緊張感あふれる1年生と、ずいぶん背丈も伸び周囲に気配りを見せる3年生まで、計30人の子供たちや先生方、保護者の

方々が温かく迎えてくださいました。

宮崎支部は、1期生(3年生)5人をサポートしています。

厳しい環境のなかで無事3年生に進級できた子どもたちに会えることは本当に楽しみでした。宮崎支部から3度目の訪問となる川畑さんを見つけた瞬間の子供たちの素敵な笑顔!毎年参加されているサポーターの皆さんが長～

いているのか気になったことも事実です。

1期生は、来年卒業です。自分の夢を持てる環境であってほしい。夢のための努力が実を結んでほしい。便箋いっぱい丁寧に書かれた手紙を見ながら、これからも細く長く支援を続けていけるよう願っています。

そして、来年の卒業式(ベトナムでは中学校は4年制)をベトナムで祝いたいなあ…と思う今日この頃です。

2019 春ラムドン省で少数民族学生奨学金支援

JVPF 鹿児島支部 川路 孝

2013年度から開始されたラムドン省での奨学金支援事業(年額15,000円×3ヶ年)も2018年度で6年目となり、すでに30人が卒業し上級学校や仕事に就きました。

2019年1月25日、JVPF鹿児島支部が就学支援を行っているラムドン省ダラットにあるラムドン省少数民族高校で、6回目となる奨学金授与式を行いました。

今回は、第4期生から第6期生の30人に対する奨学金の授与でした。JVPF鹿児島支部から川路と道免・大森の3人と、JVPF本部から1人、ベトナムのJVPFからルオンさん他4人の8人が参加して行いました。

授与式では、今年も全校挙げての熱烈な歓迎を受けまして、こちらが恐縮しながらの授与式でした。

全校生徒約440人ほぼ全員の参加、先生方も約2~30人参加されて、生徒さんによる民族衣装を着ての踊りや歌などでの歓迎で始まりました。授与式をした講堂の舞台の正面には、「JVPFから奨学金を頂いている」との大きな看板も飾っており、奨学金を大事

い道のりをマイクロバスに揺られても、ハザンに向かう理由が

この瞬間なのか!と思ったところです。

今回は、先生方との意見交換の時間も設けていただきました。先生方にも少数民族出身者がおられ、女性の先生の割合が高く、それぞれの専門分野で熱心に指導されていること、そして子供たちは100%高校に進学していること、ベトナムの教育事情からサッカー談義まで、言葉の壁を感じながらも有意義な時間だったと思います。

中学校訪問中は、奨学生以外の生徒たちも集まってくれましたが、自前のスマホで“一緒に写真を撮ろう”という生徒や”日本に行った”と話す生徒がいることに驚き、経済的な格差が大きくなる中で必要なところに支援が届

にしっかりと受け止めているという気持ちを感じました。

校長先生のあいさつでも、「JVPF の気持ちを受け止めてしっかりと勉強しよう」というお話もあり、奨学金を

また、集まって頂いた生徒さん全員の「目が輝いている」し、笑顔いっぱい歓迎してもらっているし、「こんにちは」とか日本語で挨拶してくれる生徒さんもいるし、最近では近親感も

ターの皆さんにお渡しし、個々人での手紙の交流も深めたいと思います。

ここラムドン省少数民族高校には、18の少数民族の子供さんが学んでいるという事でした。先生方の苦労も多いことだと感じました。

また、学校が自前で作っているビニールハウスで、今年は、寮で使う野菜ではなく、何百本ものカーネーションが育てられていて、出荷もするという事でした。学校経費の捻出という事では、苦勞されているようですが、すでに注文も頂いているという事でしたので、カーネーションの栽培も認知され、信頼されているのだという事を感じました。

学校の努力にも敬意を表するところです。

今年は、生徒さんの歓迎に添えて、鹿児島の大森美枝子さんから日本の歌を歌って頂き、文化交流も出来ました。意義ある友好・連帯の場にもなったと思います。

私たちの活動も、まだまだ微々たる内容ですか、就学支援をやってよかったという思いを持つ事が出来た今回の授与式でした。



上：今回も学生たちが民族衣装で歓迎の踊り、歌を披露してくれた。下：奨学生たち 30 人と。



受けている生徒代表も、「奨学金頂いて感動している。しっかりと勉強し、夢の実現のために頑張ります。頂いたお金だけでなく心を受け止めて頑張ります」という決意を込めたお礼の挨拶もありました。

感じながら、ひたむきに努力をしている姿も感じながらの授与式となりました。

さらに、今年は、奨学金を受けている生徒さん全員から、その場でお手紙を預かりました。早速鹿児島のサポー

ハノイで「200 万人餓死事件追悼慰霊碑」を参拝 ～重いものを突きつけられた～

新潟 角山優子

1月15日。その場所は市内の大通りから3回も小道を曲がり、最後には人と人がすれちがうのもやっとという奥まったところに、ぼっかりという感じで存在した。小さな建物の1階と2階に祭壇があり、管理人の男性から線香に火をつけて頂き参拝した。慰霊碑はその隣地にあり、建てた当時は当時の写真によると周りが田畑のようだったと思うが、こんな町の中に何故と思うほど周囲は建てこんだ住宅地だった。

私は、この事件について事前の予備知識が何もなく訪問したことが申し訳なく、この報告を書くにあたっても困惑した。市の中央図書館にも関連資料がなく、市の資料館から取り寄せてもらい手にしたのが「ベトナム 200 万人餓死の記録—1945 年日本占領下で」（早乙女勝元著、大月書店刊）の1冊だった。関連出版物がいかに少ないかがわかった。

この著によると一—1937 年からの日中戦争以降日本国内は食糧事情が悪化、朝鮮米も 1940 年から途絶えて、その後は南京袋に入った『外米』が内地米より多くなる。1941 年 4 月からコメの配給制が実施され、そのうち主食のコメは外米を混入してもなお絶対量が不足し、いもや大豆などの代用食になってゆく。その外米とはベトナムが多かった。日本軍の仏印進駐は 1940 年。それ以降窮乏化の日本にベトナムからコメな



ど戦略物資が船で運ばれた。1945 年 3 月 9 日『明号作戦』と名づけられ対フランス戦に勝利した日本軍は、ベトナム人民に対しあらゆる略奪、搾取を行った。ベトナムのハノイ周辺や红河周辺の穀倉地帯ではコメやモミまで「帝国の必要なる資源の獲得」と称し、根こそぎ掘り出させられた。その結果水害などで収量の少ない中、1945 年にはこの地域で 200 万人の餓死者がでた。1 家族全滅とかひとつの村の 6 割が餓死というところもあったという。戦死者よりも圧倒的に餓死者が多かったのだ一。

戦時、日本では栄養失調による病気その他で亡くなった人はいるだろうが、少なくとも餓死者は出ていない。そのこととベトナムの人たちのこの事件を思いあわせ、1 人の日本人としてどう思うか、重いものを突きつけられた。